

みんなで作る【うらほろ魅力MAP】大作戦！

☆協働のまちおこし NPO日本のうらほろのページ☆

産品
vol.5

今回は「さかな」がテーマ。浦幌で獲れる美味しい魚はたくさんあります！「秋鮭」「ししゃも」等々は、すでに付加価値が付けられています。今回取り上げたい産品はいわゆる「雑魚」（ざっぱ魚）です！？



刺身が旨い「かわがれい」をもらい笑顔のアンジェロさん

「きゅうり」「ウグイ」「かじか」などいわゆる雑魚はなかなか市場では流通せず、まかない用や海に捨てられているのが現状。もちろん全てをお金に換えることが良いとは思いませんし、漁師さんたちの家で美味しく食べられ、また余分な部分は海に捨てられて、海の栄養分として他の生き物の食べ物になっていることも大切だと思いますが、ただ、その魚たちに大きな魅力があり、それを求める人たちがいることも事実。そのことは魚種が豊富な浦幌の大きな誇りでもあると思います。

写真左は、厚内の八協水産の人たち。秋鮭漁の時の様子です。

そこに写っているひと際大きな人。写真下の彼は東京でイタリア料理店を経営するアンジェロさん。TV コマーシャルやBS サッカー解説など多方面で活躍する彼が10月に浦幌にやってきて、鮭漁の船に同乗。スローフード発祥の地イタリア出身の彼が目にしたのは、かじかなどの雑魚。この日、漁師たちからもらった「かじか」を実験的にお店で試し、お客さんの好反響を得たそうです。

今までは見向きもされなかった浦幌産の「さかな」たちが脚光を浴びる日もきっと遠くない。

これはすごい！農協・漁協の青年部が主催！！

浦幌町農協の青年部と厚内、十勝太の漁協青年部が合同でイベントを開催するという情報をゲット！早速、厚内の吉田雅彦青年部部长に話を聞いてみた！

イベント名は【青年部から贈る海と山の幸フェア】。

「青年部で連携して、イベントを行い、町を盛り上げたい！」

そう話してくれた吉田部長。海があり、山があり、大地がある、まさしく浦幌だからできる販売イベントだ！開催は国道沿いで行われ、町外の人にも対象とするらしい。このイベントがきっかけで青年部オリジナルの商品が生まれ、農と水の新たな連携ができたり、商工青年部との連携にまで波及する多くの可能性を秘めている。

今後の展開と活躍に注目したい！いま青年部が面白い！



写真はイベントのチラシ。今後大きな期待です！

やっぱり、浦幌の農産物・海産物は魅力的です！

うらほろスタイル教育プロジェクト

☆自信と誇りと思いやりを持つことから始める☆

今回は、浦幌小学校5年生の総合学習と連携して行ったモデル授業と公民館で行った「公開勉強会」の様子をお伝えいたします。

＜モデル授業＞ 魅力発見バスツアー



(10/19 実施)

児童が浦幌の魅力に触れ地域に対する知識と愛着を深めるのが狙い。前回紹介した中学校の「魅力案内バスツアー」への連携を今後検討していく。



人づくりによる農村活性化支援事業（農水省）の検討委員3名がパネラーを務める「公開勉強会」を10/22に公民館で開催。浦幌でできる、実現可能な、地域にあった地域のまちづくりと子どもたちの関わりをテーマにディスカッションしました。

パネラーの一人、茨城県からお越し頂いたNPO法人アサザ基金の飯島博氏は、子どもたちが地域に自信と誇りを持つためには？という質問に、こう答えてくれました。

「地域に子供たちの居場所を作ること。この町が僕たちを必要としている！と思わせることが大事。子どもたちに町のことを考えさせて、提案させてそれを一つでも大人たちの手で実現させることが大切。」

“僕たちの意見を聞いてくれた！”

子どもたちの提案が形になり、目に見えて何かが残っていれば、子供たちに大きな自信を与えるはず。この町に住んでいたいと思うはずです。

農山漁村には今の時代に必要なものがたくさん隠れているのかも…。



上の写真は東京都武蔵野市が行っているセカンドスクールを紹介した本。武蔵野市では、市内の小学校5年生と中学校1年生の全生徒に約1週間ずつの田舎体験（セカンドスクール）を行わせています。

体験の舞台は、長野県飯山市。都会では味わえない自然に囲まれた生活に触れ、人間は自然の中に存在するという原点に子供のうちに触れさせるというテーマで都会の学校が行う有効な総合学習として全国展開を始めています。

実は、このセカンドスクールの発案者は、当時の武蔵野市の土屋正忠市長でしたが、現在国会議員になった土屋氏の提案で全国の小学校でセカンドスクールを実施することになりました。つまり、全国の小学生（5年生）120万人に田舎での農山漁村体験を義務づけさせるということです。現代社会の問題解決の鍵が農山漁村での生活に隠されていることを国が認めたと言っても過言ではないだろうと思います。文科省、農水省、総務省が連携して今後進めていくこの前代未聞の一大プロジェクトの受け入れ先として、今後、浦幌町にも求められてくる部分がきっとあると思います。

現在の案では、ひとり5万円×120万人。つまり毎年600億円もの予算が付けられる公共事業との見通し。町おこしの切り札として、受

け入れ先として手を挙げる自治体や、関わりを求める企業や産業団体もきっと多く出現するはずです。

地域活性化の策として注目されることはとても良いことですが、なぜこのセカンドスクールを小学生に体験させるのか？子供たちに何を伝えたいのか？という考え方は絶対に守らなければならないと思います。このセカンドスクールで注目したいのは、変わったのは武蔵野市の子供たちだけでなく、受け入れ先の飯山市の子供たちも変わったということ。都会の子供たちと関わりを持つ中で地域に自信と誇りを持つようになった子供たちが増えたということです。

今後、本プロジェクトでも検討したい話題です。